

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2021年 5月 15日

事業所名 放課後等デイサービス つばさ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		利用人数が多い際は狭く感じる時がある。
	2	職員の配置数は適切である			○	求人募集継続中。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			階段に手すり、滑り止めがついている。エレベーターがついている。施設内がフラットになっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		会議を行い業務改善に努めているが、会社全体での改善取り組みに至っていないため、広く参画できているとは言い難い。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今後改善につなげていく方針。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページにこれから記載する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後検討していく。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			職員研修を年に2.3回行っている。 ケース会議等は毎月行っている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			日頃の送迎の際に、できる限り保護者と関わり、学校の様子、家での様子を伺い、現状をきちんと把握し計画作成に生かしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			多種多様な知育に関するおもちゃや学習教材を取り揃え、個々の状態・レベルに合わせて組み替えながら状況を図るよう努めている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			平日は、子供達の状態に合わせて活動を行うため、臨機応変にプログラムを考えるため立案することは少ない。土曜日や長期休暇の際はスタッフ皆でプログラムを考えている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		土曜日や長期休暇の際は、違うプログラムになるようにスタッフで考案する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			子供の状態によりタイムスケジュールなどが前後したりするが、「学習の時間」を前半・後半で分け、皆が行えるよう努めている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			作成できているのでさらに良い計画が立てられるように思索していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			今後も続けていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			○	支援終了後に行うことは少なく、気付いた点等をホワイトボードに記載し、支援前に支援についての話し合いをすることが多い。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている			○	日々の記録を用いての会議で話し合い、支援の検証、改善を行っている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			6ヶ月に1回はおこなっている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている		○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			担当者が対応している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○		連絡調整は適切に行っているが、情報共有は一部の学校できていないので、今後対応していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			何かあった場合にすぐに連絡できる体制は整えられている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		新1年生が入所することがあればきちんと情報共有を行いたいと考えてる。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			相談支援担当者との連絡を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		年に数回、研修の参加を検討していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナの関係上、他施設等の交流が出来ていない。コロナが落ち着いたら検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		時間に都合が合えば参加するようにしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○		共通理解を持っている家庭もあるが、家庭の都合や事情により状況や課題がわからない家庭もある。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		現在はおこなっていないが、今後検討していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			今後も続けていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		保護者様からの相談があった場合は、助言支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		現在はおこなっていないが、今後検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			そのような事案が起きた際にはきちんと対応をしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		現在おこなっていないが、今後、ブログで行っていく。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	招待する等行事はおこなっていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		今後、ホームページに記載を行い、保護者様へ周知を行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に2回事業所内で行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年に1度虐待防止をテーマに会議及び研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			保護者とのアセスメント等を行い、十分に説明し、放課後等デイサービス計画に記載する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			会議において、スタッフ間でもきちんと周知されている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			常にスタッフが確認できるようにし、支援に生かしている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。